には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム「和らぎ」「歓び」

日付 平成17年2月16日

特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験16年

評価調査員 在宅介護経験11年

評価調査員 在宅介護経験10年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験及び

自主評価結果を見る 介護支援専門員8年

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「医療－福祉－介護」を一貫して一人ひとりの人間を支えていき、家族と近隣の人々と共に「痴呆の人が安心して暮らせる地域づくり」の必要性を提唱している理事長の強い思いによってつくられた病院や諸施設の中のグループホームである。

グループホームに関わる管理者、職員も、これらの痴呆ケアにふさわしい素質ある人材で研修を重ね、理事長の思いを理解し、職員一人ひとりが利用者の声をしっかり受け止め「私達が住みたいと思う家にしようネ」と言っているんですという言葉に納得している。

毎日の生活の中で利用者の過去の経験や現在の能力を出して貰い、調理や片付け、洗濯物たたみ等の家事に多くの利用者が参加している。「何か役に立つことをしている時が楽しい」と利用者が話してくれた。

午後は、入浴したり、買物に出掛けたり、自室で趣味を生かした作品作り、自分の部屋でゆっくり過ごす等をして、一人ひとりが思い思いにしたいことを職員が援助している。静かな時間がホームに流れる。

利用者一人ひとりの気持や思いを大切に、利用者が主人公として尊重されている様子を感じた。理想的なグループホームに見え、賛辞を残しておきたいと思ったが、痴呆性高齢者の毎日のケアに更なる研究を重ねて頂き、グループホームのケアの質の向上のリーダーシップを期待する。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

グループホームのハード面は、申し分なく整備されている。屋内のスペースもゆったりとして、雰囲気も良く活用しやすい。屋外スペースも広く、テラスあり、庭あり、菜園ありで何でも出来る環境である。残念ながら、これらの施設が十分に活用されていないと思うので、家族や地域の人々、ボランティアの家族や地域の人々、ボランティアの人々も含めて積極的に活用していく仕掛けをつくって欲しい。

ゆったりと、その人らしい生活を側面から見守っている事はとても大切です。しかし痴呆の人の気持や希望を引き出してあげるためには、職員がもっと積極的に問いかけに返事が出来るような会話のメニューを沢山投げかける等、もっと積極的な対応が必要ではないでしょうか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

献立作りから食材の調達と、調理に職員と利用者がかかりの時間をかけて関わっている。利用者に「今晚何にしようか、何食べたい」と聞くが、即座に返事が無い。「お魚にする、肉にする？」と問うと「魚が良い」「八宝菜が食べたい」と返事があり、献立がまとまっていく。調理には元気な頃の経験が生かされ、得意なことを分担しながら、職員との会話を楽しみながら進めていくことは、それぞれの人の能力を十分活用していることが分かる。
入浴も一人ずつゆっくり入る。総檜作りの風呂は最高で、ここで毎日入浴できるのは、利用者は満足しているだろう。トイレは各部屋にあり、プライバシーを保っている。散歩や買物に行き、社会の中での生活も楽しんでいる。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

理事長の「地域交流村ふくだの里」の理念を一つ一つ実践していくと、医療－福祉－介護を一貫とする地域ぐるみの高齢者ケアに加え、家族－地域を含めた小規模多機能ケアの拠点がこの地に実現するだろう。

ハード面は申し分なく整備されているので、グループホームやデイサービスの管理者・職員が、一生懸命日々努力しておられることは良く理解出来るが、「痴呆ケア」ということを更に研究して頂き、「痴呆ケアの質の向上」そして「サービスの質の向上」に努力して貰いたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

記述項目 グループホームとしてめざしているものは何か

「普通の暮らしが出来る家庭」「地域に密着した家族としての暮らし」を目指して、利用者と職員が一体となって生活している。理事長の痴呆性高齢者に対する思いを実現する為に、利用者が一人ひとりの人らしさと生き生きとした生活を送れるよう管理者と職員は日々努力している。又、一軒の家として、地域の人達との交流をし、地域の中で一緒に生活をしていくことを現在は目指している。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

記述項目 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

木や障子を使って全体としては和風空間となっているが、ユニットでモダン風とクラシック風に別れ、各々に特徴があり、中間にはガラス張りの明るいホールがある。各室は和風であるが、内装や入口戸が全室異なり畳とフローリングの部屋がある。そして各居室にトイレと洗面台があり、プライバシーも保たれている。
共通の設備とし総檜作りのお風呂と共用のトイレもある。このトイレは身体障害部分を補う人間工学の粋をつくしたという工夫がされている。外周りも庭・菜園も豊富で空間として申し分ないが、全体として痴呆の利用者が使い切れる空間として、もっと十分に活用して欲しい。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		